

裾野麗峰山の会・山行報告書	文・井上	写真・後藤
山行番	NO. 1979	
日時	2022年04月02日(土) 晴	
山域	ハッ・権現岳(2715m)	
コース	天女山登山口 5:15 - 天の河原 - 観音平分岐 - 前三ツ頭 8:43 - 三ツ頭 9:35 - 権現岳 10:25 - 三ツ頭で昼食 11:10 (後藤さんと加藤さん 11:50 到着) - 下山開始 12:20 - 天女山 - 登山口 14:53	
標高差	上り・下り 登山口約 1370m ~ 三ツ頭 2580m ~ コル 2515m ~ 権現岳 2715m =1210+200=1410m (累計標高差=上まで 1410m+下りの登り返し 65m=1475m)	
難易度	非常に困難 困難 レやや困難 普通 やや易しい 易しい	
権現岳・リベンジなる		
参加者	後藤(75)・加藤、井上(52) = 3名	
ど〜が〜	http://susono-reihou.babyblue.jp/0000-19.mp4	

このコースは昨年末12月30日に挑戦したが、暴風雪のため前三ツ頭上で撤退した。今回は同じメンバーでリベンジ登山だ。

前日の昼1時に下土狩駅出発。富士宮の朝霧から見た富士山は麓までうっすらと新雪をかぶっていた。3時半には現地到着し登山口のゲートがまだ閉まっているのを確認した。4月末までゲート閉止と表示されていた。時間があるので「三分一(さんぶいち)湧水」を見学。湧水を3か所に分配するマスがあった。辺りに「座禅草」が咲いていた。



湧水

加藤さんが駐車場横の産直で「アイスプラント」(150円)を購入。多肉植物で天然のしょっぱさがあり、表面がきらきらと光っている。生で食べてシャキシャキして少し苦みもあり酒のつまみによろしい。前回と同じ「いずみ荘」(素泊まり5500円)に宿泊。併設する大浴場「パノラマの湯」の利用券をもらえる。私はパノラマの湯でジャズの流れるサウナに入り、後藤さんと加藤さんはいずみ荘の内湯に入った。施設内食堂で夕食を取り、8時には消灯。



座禅草



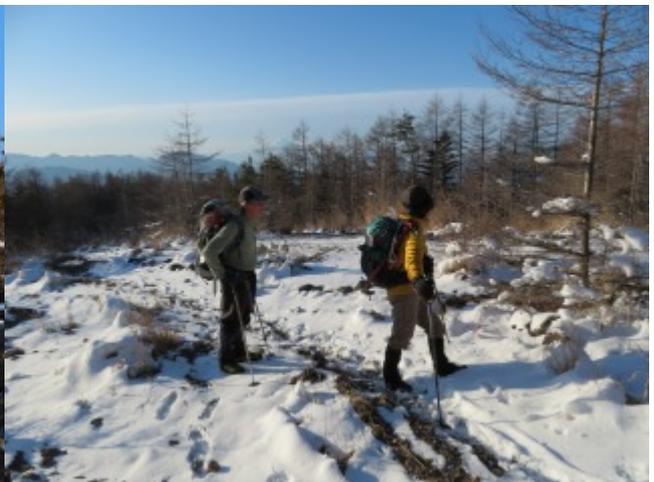
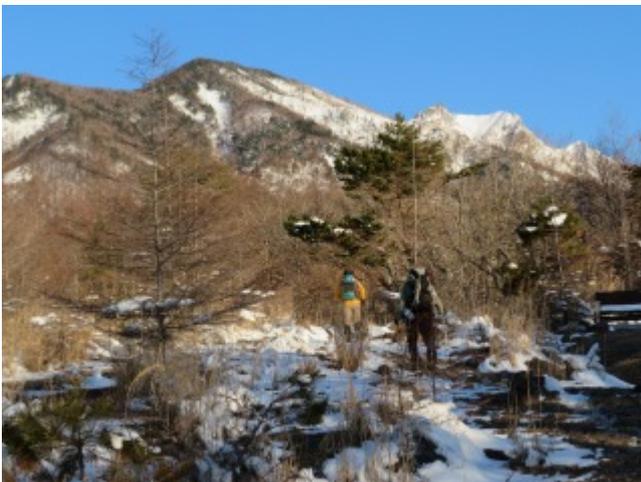
アイスプラント

夜中 1:20 に、後藤さんが「4 時だ」と時計の長針・単身を読み間違えた。3:50 起床。後藤さんはよく眠れたらしく「5500 円の価値がある」と言った。私は 11 時まで 3 時間は眠ったがその後眠れず困った。朝食は、加藤さんが準備してくれていたシチューごはんだった。たっぷりいただき、今日の山へエネルギーを蓄えた。

4:55 いずみ荘出発。玄関の自動ドアがロックされていて、携帯電話で宿の係を呼び出し開けてもらい出発。朝食時、前回あった電子レンジが無かった。やや、問題があった。登り口のゲートに到着すると、すでに 4 台の車が停まっていた。駐車した隣の浜松ナンバーのジムニーにはまだ車に人が乗っていた。

5:15、まだ薄暗いがヘッドランプなしで出発。年末はアイゼンをつけたが、今回はまだいらぬ。徐々に朝日が昇る。夜のうちに成長した 5 センチから 10 センチの霜柱をサクサクと踏み、緩やかに登っていく。

一昨日の新雪が積もっている。富士山が雲海の上に浮かび、海上の島のような。この日、地元の長泉では富士山は雲の中だったらしい。雪をかぶった北岳、甲斐駒、仙丈が見える。快晴無風。最高の登山日和。前三ツ頭手前は標高差 500m の急登だ。今回は踏み跡があるが、前回は誰も歩いておらず、深い雪をラッセルした。今回は 1 カ月ぶりの登山で体が重い。登頂できるか、下りの体力が残せるか不安だった。



下部登山

途中、加藤さんのコンタクトレンズがずれて大騒ぎになったが、単独行の女性が見てくれて元に戻った。加藤さんは感謝しきり。この女性は、このコースは夏に一度来て、雪山では初めてとのことだった。彼女は、東京の「ジャック・アンド・ベティ」山の会会員だった。ここで、単独の男性と浜松ジムニーの2人の男性に抜かれた。

前三ツ頭にてで稜線を歩く。まるで天上の楽園だ。前回ここで真横から強烈な風雪を受け撤退した。地獄だった（地獄は知らないが）。



三ツ頭から権現岳に向かう

三ツ頭に着くと、いきなり圧巻のハヶ岳が現れる。目の前にとがった権現岳、となりに阿弥陀、中岳、赤岳がならんで大迫力。遠くは北アルプスの穂高や大キレット、槍ヶ岳も小さいがはっきりと見える。ここから2人と別になり、私が先に登ることになった。権現にこの日最初に登った人が下ってきた。ラッセルのお礼を伝えた。この人は前日の11:30に出発して夜ラッセルし、三ツ頭で日の出の写真を狙ったらしいがそれには間に合わなかったとのこと。

雪底もあるのによく真っ暗な中でラッセルができるものだ。コルまで下り、また登りが再開する。すでに1210m登ってきており脚はかなり疲れているが、頂上を目の前にしては、もう引き返す気にはならない。先に歩いている人のは3人なので足跡が少ない。大岩の壁の下をトラバースする。傾斜がきつく、足場は狭く、気を抜くと滑り落ちそうだ。

まだ登りはよかったが、下りはかなり怖かった。脚の疲労がたまっているので不安定になる。できることを最大限にする。アイゼンの刃を効かすように雪面をキックする。アイゼンの裏に付いた



権現岳

雪の塊をピッケルで叩いてこまめに落とす。ピッケルを刺せる雪面があれば刺す。岩をつかめればつかむ。なにかを頼りにしていないと体が安定せず不安な気持ちになる。それでも、足跡があるのだから人が歩ける場所だと自分に言い聞かせ落ち着こうとした。

頂上の大岩の手前の祠に到着。この先のルートが表示されていない。よく見ると岩を左回りに少し下り気味に巻いている足跡がわずかに見えた。普通、他の山なら、岩の表面に矢印やまる印などがあるがここにはない。加藤さんがこの大岩を登って越えていたことを、下山後に見たビデオ動画で分かった。

三ツ頭の標識に権現岳頂上まで1時間と書かれていたが、50分で登頂できた。頂上付近は足元が狭く、崖になっているので気を抜けないため、ザックから携帯電話のカメラを出せずタッチアンドゴーで祠まで引き返した。

三ツ頭で一緒にいた浜松ジムニーの黄色のズボンの人や単独の女性が次々と祠前に到着し、一言二言声をかける。下りも気を抜かないように自分に言い聞かせる。コルまで下りるまでに、4~5人が登ってきた。この後、後藤さんと加藤さんが登ってきた。コルまで下りてしまうと、さあ、ここから三ツ頭までの65mが本日最後の登りだ。体力上の本当の頂上だと思った。後ろから男性ひとりが来ているのがわかり、抜かれたくない一心で三ツ頭を目指した。

三ツ頭に着くと、休んでいる男性がいて、時間的に頂上はあきらめ引き返すことにするそうだ。後藤さんがすれ違う時に「三ツ頭で飲んで待ってて」とのことだったので、2本持っていったビールを順に飲んだ。これまでの苦労が泡とアルコールで消えた。三ツ頭にいるのは自分だけで、周囲



雪壁の下降

の景色を独り占めでき、ビールを持ってあちこちと座る石を変え、見える景色を変えながらゆっくりビールをすすった。加藤さんが帰りも車を運転してくれることになっているので大変ありがたい。それでもまだ時間があるのでカップヌードルを作って食べた。40分間、三ツ頭を独占した後、後藤さんと加藤さんが到着した。ここで、先にすれ違っていた赤いポンチョを着た高齢の男性（茅野市・三井博志さん・74歳）も入って山やスキーの話に花が咲いた。この方は、10年前まで山スキーに特化し、数々の「記録」を作ったらしいが、現在は、やっていないという。



権現岳山頂から俯瞰



山頂



合流



左・三井さん

12:20 下山開始。三井さんも一緒に下り、話が尽きない。踏まれた雪も時々深く足が落ち込む。雪にはまると自力では抜け出せないなので手を貸してもらって脱出する。途中のベンチで、加藤さんが運んだ後藤さんのビール1本があるので、せっかく持ってきたのだからと、ここで飲むことにし、後藤さんと私で分けていただいた。

松の大木があり、大きな4mくらいの幅のある枝が地面に落ちていた。葉がまだ青々としていたのでまだ幹につながっているようにも見えるが、離れているようだ。

14:53 長い長い下りがようやく終わり、登山口のゲートに到着。その後、いつもの「みたまの湯」で汗を流し、食事と一杯。19:30 長泉着。

翌日、翌々日と筋肉痛は続いた。約3か月越しに、やり残した山をやり遂げ大満足だった。改めて、毎週登山をして鍛えておくことの重要さがわかった。以上

その他の記述（後藤）

1. 後期高齢者になり、遠距離の山は日帰りが厳しい。一番の問題は「寝不足」どんなに強い方も「寝不足」はキツイ。「寝不足」解消されれば、前泊の経費は安いものだ。
2. 後発のタイムは、山頂 10:50 で、ゲートから約5時間35分だった。前回、2014/3 は、5時間6分。同じころ知り合いの若い方が3/20、甲斐小泉口から登山。スキーを使ったり、条件は違うが、6時間15分だった。（ちなみに標高差は、ほぼ同じ）
3. 昨年末、権現様に「引導を渡された」私だったが、今回、「まず、上れて良かった」
4. 今回、年末にお会いした、地元のシバタさんには、会えなかった。
5. 下山後、2~3日、珍しく、脹脛・大腿四頭筋の筋肉痛だった。ハムストリングでなかったのも、上りのダメージと思われる。





2021年末の厳しい前三ツ頭の上り

モルゲンロートに染まる権現岳

登山キタ

◆八ヶ岳・権現岳
▽2月22、23日▽静岡・三島勤労者山岳会▽後藤隆徳、栗原一郎

22日9時、車で三島を出発。籠坂峠、御坂峠を越え、中央道、八ヶ岳横断道を経て、天女山登山口へ12時。車を置き、12時15分出発。雪は20センチほど。天気は快晴。人気のある山らしく、トレールはついでにひとしきり登ると天女山に着く。ここで昼食。なだらかな高原状の道をゆ

くが、スキーを持ってこなかったことを悔やむ。はるかかなた、青い空をバックに権現岳(二七〇四)が光る。そのとなりには盟主赤岳が鎮座している。きょうはなんとかがんばって二二六四の前三ツ頭までと思うが、荷が重くてピッチが上がらない。結局この日は二二五〇地点まで。1時半。

質素だが、あたたかいものを腹いっぱい食べる。きょうはたまたま私の39回目の誕生日。これからもますますがんばって登山を続けるよう心新たに誓う。

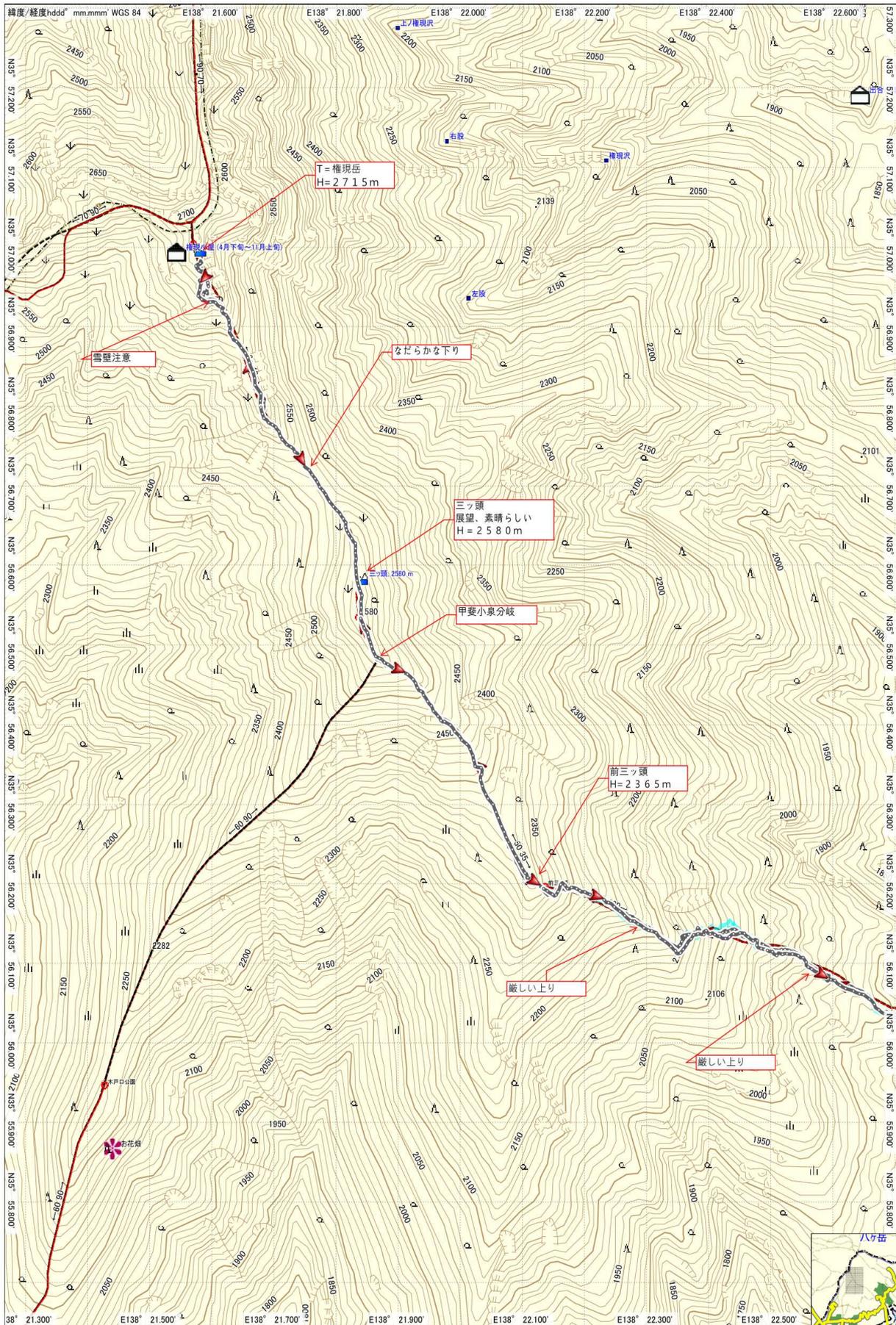
23日、3時起床。気温は氷点下15度ほど。朝食後、輪かんとアイゼンで出発。まだ暗いのでヘッドランプをつけて進む。快晴で、頭上にはオリオン座が光っている。20分ほどで前三ツ頭へ。稜(りょう)線へ出ると風が非常に強い。トレールもこの風のため消えている。6時15分待望の三ツ頭へ着く。ちょうど夜明けで、東の金峰山の上空が深紅に燃える美しい日の出だ。

眼前には巨大な権現岳と赤岳がそびえ、モルゲンロートに染まっていく。なんという美しさだ。パートナーも足をとめ、立ちつくしている。

三ツ頭を越え、本峰にアタック。頂上直下で岩壁の基部を左にトラバースし、左の稜へ出る。ここは雪がびっしりあり、豪快にラッセルしていく。頂上は目の前で、5分ほど到着。風が強く寒い。一点の雲もない素晴らしい展望だ。白山、妙高などもよく見える。

記念撮影をし、早々に下山。さきほどのトラバース地点まで戻り、パンを食べる。下りもつぼ足ではかなりもぐるので、輪かんをつける。ベイスへは簡単に着いた。テントを撤収し、ふたたび下山。登山口へは11時半着。里は春のように暖かかった。

(後藤隆徳)



Japan Topo 10M Plus V3
 Garmin/Mapbox Co., Ltd 2014
 Garmin Contribution 1980-2014

2022/04/03 13:15:30

GARMIN